

# 財団概要

## 1 沿革

当財団の母体となった病態代謝研究会は、昭和44年（1969年）に山之内製薬からの寄付を基金として発足し（趣意書を52ページに掲載）、疾患の成因の生化学的さらには分子細胞生物学的な研究および薬剤の生体内代謝の研究に助成金を交付し、がん、生活習慣病をはじめとする各種疾患の機序解明、治療薬の進歩に貢献してまいりました。

平成17年4月山之内製薬と藤沢薬品工業とが合併しアステラス製薬の誕生にともない、藤沢薬品工業が主たる出捐（公益法人等に寄附をする）企業であった医薬資源研究振興会の事業を病態代謝研究会が継承する形で平成19年4月にその残余財産を引き継ぎました。医薬資源研究振興会は、昭和21年（1946年）に設立され、昭和47年以降、薬のシードとなる新たな天然物を中心とする創薬資源の探索と応用研究に助成し、我が国の創薬探索を支援してまいりました。新生「病態代謝研究会」は、疾患の機序解明と創薬資源研究を融合的に進め、病気のメカニズムを踏まえ、分子標的に対する多様性をもった創薬資源からの画期的新薬の開発、および臨床における安全性と経済性の統合的な利用を開発する研究を助成する活動を行っています。

平成20年12月1日からの公益法人改革関連三法（新法）施行に向けて、ほぼ1年前の平成20年1月から財団事務局として公益財団法人への移行検討を開始しました。その後、移行検討会を立ち上げて議論を重ね、6月21日開催の理事会で公益財団法人への早期移行を決議、新法施行後の平成21年1月7日に厚生労働省に「最初の評議員選任に関する許可申請書」を提出、4月20日に許可を得て4月28日最初の評議員選定委員会開催、5月28日に移行申請書を内閣府公益認定等委員会に提出しました。7月16日の公益認定等委員会による第1回ヒアリング後、幾多のやり取りを経て平成22年3月23日に内閣総理大臣より認定書を拝受致しました。平成22年4月1日に公益財団法人への移行登記を行い、移行申請書通り「アステラス病態代謝研究会」と財団名称も変更いたしました。

## 2 目的

当財団は、①生体の代謝を通して、疾患の発生機序およびその治療、特に治療薬剤の生体内代謝と疾病との関係を明らかにすることにより疾病と薬剤の代謝に関する未開の分野を開拓することならびに②医薬資源の発見、開発に関する基礎および応用研究を奨励し、医学、薬学その他関連自然科学の進歩発展に寄与することにより、国民の保健と医療の発展および治療薬剤の進歩に貢献することを目的としております。

## 3 事業

当財団は、前項の目的を遂行するために次の事業を行います。

- 1) 疾患の診断および治療、特に治療薬剤に関する病態代謝学的研究の助成
- 2) 医薬資源の発見、開発に関する基礎および応用研究の助成
- 3) 未利用資源の調査ならびにその利用化に関する研究の助成
- 4) 研究業績資料に関する刊行物の発行および講演会、講習会の開催ならびにその援助
- 5) その他、当財団の目的を達成するために必要な事業

## 4 事業内容

本財団の目的に沿う研究への助成事業、研究報告会開催、刊行物発行等を実施しています。その主な概要は次のとおりです。

## 1. 助成事業

### 1) 研究助成・海外留学補助

「疾病の解明と画期的治療法の開発に関する研究」であり、「独創性、先駆性が高い萌芽的研究提案」を支援します。領域は特に問いません。

#### <助成対象研究>

- ①疾患の基礎的研究（遺伝子、タンパク質、病態、診断法、治療法、iPS細胞を用いたあるいはエピゲノムに注目した疾患の解明など）
- ②創薬化学研究（合成化合物および合成技術、天然物、抗体医薬や核酸医薬を含むバイオ医薬、細胞治療、DDS等の先端技術の開発とその応用、ならびに創薬段階におけるヒトに対する安全性予測研究）
- ③基礎生命科学研究〔細胞生物学、ゲノム科学、構造生物学、システム生物学、さらには、物理、化学、数理情報科学からの生命科学への展開（SBDD、分子動力学、ギガシークエンサー、イメージング、化学反応機構など）〕
- ④臨床研究（ヒトを直接の対象とした上記趣旨に合致した研究。疫学研究、コホート研究を含む）

#### <特色>

「個人型の研究」、「女性研究者」、「教室を立ち上げたばかりの研究者」、「留学から戻られたばかりの研究者」を支援。

#### <助成交付者数・交付金額>（病態代謝研究会のみ）

項目	期間	交付者数	交付金額
研究助成金（研究奨励金）	S44年（設立）～H24年度	3,048名	2,269,300,000円
海外留学補助金	S58年～H24年度	386名	307,600,000円
総計		3,434名	2,576,900,000円
最優秀理事長賞（副賞）	H16年～H24年度	（20名）	20,000,000円
竹中奨励賞（副賞）	H24年～	（1名）	500,000円

注1：最優秀理事長賞および竹中奨励賞は副賞ですので研究助成金とは別に集計。ただし、これらも公益目的事業の一環として実施していますので、助成総額は副賞分も含め2,597,400,000円とさせていただきます。

注2：平成19年4月に事業継承した医薬資源研究振興会分（1,357名、1,223,900,000円）との合算累計：

交付者数：4,791名、交付額：3,821,300,000円

注3：平成23年度は、東日本大震災の被害に遭われた研究者の早期復興を祈り緊急研究助成金を公募により交付しました。これら（94名、21,350,000円）も合わせると助成交付累計は、交付者数：4,885名、交付額：3,842,650,000円 となります。

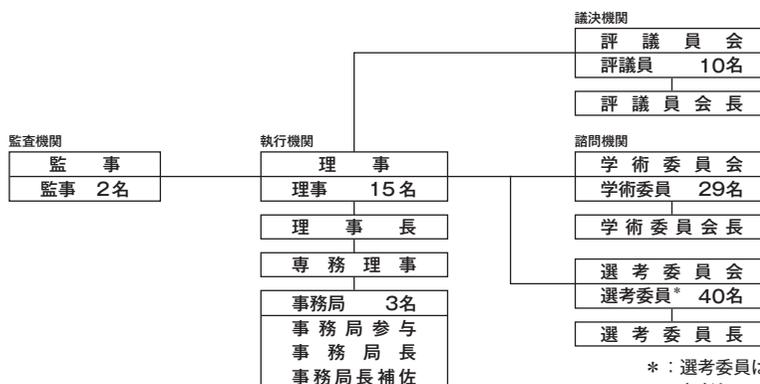
### 2) 研究報告会

前年度に交付した研究助成金により実施された研究の成果発表を目的に毎年10月に研究報告会を開催。

### 3) 刊行物

- (1) 財団報：当財団の一年間の活動をまとめて、機関誌として発行。
- (2) 助成研究報告集：研究報告会で発表された研究成果を研究年報として発行。

## 5 組織と人員（平成25年3月31日現在）



\*：選考委員は、理事、学術委員で構成される。ただし、アステラス製薬関係者は除く

## 6 評議員・役員・学術委員・職員名簿 (平成25年3月31日現在) (五十音順・敬称略)

### ■評議員 評議員会長 評議員

石井 康雄	アステラス製薬株式会社
相川 直樹	慶應義塾大学名誉教授、アステラス製薬社外取締役
磯部 稔	国立清華大学(台湾)、名古屋大学名誉教授
佳能子	株式会社メデイヴァ、アステラス製薬社外取締役
神谷 一夫	神谷税理士事務所
佐藤 公道	安田女子大学、京都大学名誉教授
杉山 雄一	理化学研究所 イノベーション推進センター、東京大学名誉教授
田嶋 尚子	東京慈恵会医科大学附属病院、同大学名誉教授
長嶋 憲一	東京21法律事務所
野田 哲生	がん研究会 がん研究所

### ■理事 理事長 専務理事 理事(兼 選考委員長) (兼 学術委員長) 理事

兒玉 龍彦	東京大学 先端科学技術研究センター、アイソトープ総合センター
塚本 紳一	アステラス製薬株式会社
門脇 孝	東京大学大学院 医学系研究科、同大学 医学部附属病院
後藤 由季子	東京大学 分子細胞生物学研究所
内田 渡	アステラス製薬株式会社
小川 久雄	熊本大学大学院 生命科学研究部、国立循環器病研究センター
堅田 利明	東京大学大学院 薬学系研究科
倉智 嘉久	大阪大学大学院 医学系研究科
須田 年生	慶應義塾大学 医学部
中里 雅光	宮崎大学 医学部
長澤 寛道	東京大学大学院 農学生命科学研究科
長野 哲雄	東京大学大学院 薬学系研究科
廣崎 晴久	アステラス製薬株式会社
藤井 信孝	京都大学大学院 薬学研究科
泉二 登志子	東京女子医科大学

### ■監事

大山 悦夫	税理士法人 タックス・マスター
樫井 正剛	アステラス製薬株式会社

### ■学術委員 学術委員長(兼理事) 学術委員

後藤 由季子	東京大学 分子細胞生物学研究所
一條 秀憲	東京大学大学院 薬学系研究科
稲葉 俊哉	広島大学 原爆放射線医科学研究所
井上 将行	東京大学大学院 薬学系研究科
今井 由美子	秋田大学大学院 医学系研究科
上杉 志成	京都大学 化学研究所、同大学 物質-細胞統合システム拠点
上田 啓次	大阪大学大学院 医学系研究科
大嶋 孝志	九州大学大学院 薬学研究院
大隅 典子	東北大学大学院 医学系研究科
大谷 直子	がん研究会 がん研究所
小川 佳宏	東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科
尾崎 紀夫	名古屋大学大学院 医学系研究科
笠井 清登	東京大学大学院 医学系研究科
熊ノ郷 淳	大阪大学大学院 医学系研究科
佐々木 雄彦	秋田大学大学院 医学系研究科
塩見 美喜子	東京大学大学院 理学系研究科
袖岡 幹子	理化学研究所 基幹研究所
高柳 広	東京大学大学院 医学系研究科
竹居 孝二	岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科
徳山 英利	東北大学大学院 薬学研究科
中山 俊憲	千葉大学大学院 医学研究科
根岸 学	京都大学大学院 生命科学研究科
外森 直哉	札幌医科大学 医学部
南 雅文	北海道大学大学院 薬学研究科
三輪 聡一	北海道大学大学院 医学研究科
柳田 素子	京都大学大学院 医学研究科
山下 敦子	岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科
山本 一夫	東京大学大学院 新領域創成科学研究科
若槻 壮市	スタンフォード大学、高エネルギー加速器研究機構 物質構造科学研究所

### ■職員 事務局参与 事務局長 事務局長補佐

山下 道雄	アステラス製薬株式会社
石川 弘	アステラス製薬株式会社
尾崎 まり子	アステラス製薬株式会社

## 財団法人「病態代謝研究会」設立趣意書

近年医学の進歩は誠に目をみはるものがありますが、その原因の一つに医学的研究の手段として、物理的、化学的手段が大幅に導入されつつあることを挙げる事が出来ましょう。

医学の研究は、人体を形態的な面から追求することにより始まり、長い年月と多くの研究によって解剖学、組織学等の形態学が発達し、やがて、機能面の追及により、生理学が発達して、今日に至りましたが、生理学から、化学的分野が分化独立して、新しく生化学が体系づけられ、近代医学の基礎が作られました。

従来、形態学的、生理学的に捉えられていた疾病像が化学的に追求されるに及んで、人体に関する知識も革新され疾患の診断並びに、治療を、生化学的な目で見直す時期に到達いたしました。

その後、生化学の著しい進歩によって、生命の根底をなしている蛋白質の生合成、核酸の役割等が、次第に明らかになり、今や人体の機能は、分子の段階で解明されつつあり、分子生物学と呼ばれる新しい生物学も台頭してきています。

このような生化学の進歩に伴って、疾病の診断および治療上、生化学的所見が極めて重要な要素としてとりあげられるに至りました。

しかしながら疾病の把握は、病理学や病態生理学に生化学的視野を加えて、始めて完全となるのかかわらず、生化学一般の目ざましい進歩発展に比し、病態それ自体の生化学的研究はまだ必ずしも十分体系づけられたとはいえません。従って現在各種疾患に対して更に高度な病態代謝学的アプローチが強く望まれております。

このような背景のもとで、私共は、疾病に代謝の面から光をあて、病態代謝学的研究を助成し、疾病の発生機序、体質および老化の機構を生体代謝または、分子生物学的観点より追及し、併せて、その治療薬剤との関係をもあきらかにすることにより、医学、延いては、薬学の未開の分野を開拓し、国民の保健および医療の進歩と病態生化学の体系化とに些かなりとも貢献することを期して、この度、財団法人「病態代謝研究会」を設立し、寄附行為記載のごとき事業を行なおうとするものであります。

(昭和44年7月31日 財団法人 病態代謝研究会 設立許可申請書より原文のまま転記しています。)

## TV ご寄付の報告とお願い

平成24年4月から平成25年3月の1年間に、医薬資源研究、病態生理・薬理研究、画期的な治療法を早期に生み出し、すみやかに患者さんの手元に届けられるような研究の奨励の一助にと、下記の通りご寄付をいただきました。頂戴しましたご寄付は研究助成事業の推進のため有効に活用させていただきます。

アステラス製薬株式会社 様	10,000,000 円
竹中 登一 様	1,000,000 円
石川 弘 様	10,000 円

当財団は今後とも研究助成事業を通して、より幅広く生命科学分野の研究に貢献して参る所存ですが、そのためには更なる事業基盤の充実が必要です。こうした趣旨をより多くの皆さまにご理解いただき、当財団へのご寄付について格別のご配慮を賜りますようお願いいたします。

なお、当財団など公益財団法人は、教育または学術の振興、文化の向上、社会福祉への貢献その他公益の増進に著しく寄与するものとして認定された法人で、これら法人に対して個人または法人が寄付を行った場合は、その個人・法人ともに税法上の優遇措置が与えられます。詳しくは当財団事務局まで、電話：03-3244-3397、あるいはEメール：[byoutai@jp.astellas.com](mailto:byoutai@jp.astellas.com) などでお問い合わせください。



## 編集後記

半年かけて準備・編集してきましたアステラス病態代謝研究会の機関誌「財団報」第6号（平成24年度版）がようやく完成し、予定通り9月15日に発行する運びとなりました。

**（役員改選）**平成24年度は、平成22年度4月1日の公益財団法人移行からちょうど2年が経ち、理事、監事、学術委員の改選の年でした。6月の定時評議員会終結の時をもって評議員の江端貴子先生、猿田享男先生（共にアステラス製薬社外取締役ご退任による辞任）、理事の杉浦幸雄先生（財団規定による定年）、学術委員の中村栄一先生（辞任）の4名がご退任となり財団を去られました。4名の先生方には、それぞれのお立場で、ご経験やご専門性を活かされ、新たな法律の下、公益財団法人として船出したばかりの当財団が正しい航路を穏やかながらも積極的に航行（研究助成・海外留学補助活動を通じて世界の生命科学の発展に寄与する人財を育成）できるよう羅針盤の役を果たしてくださいました。杉浦先生、中村先生には前身の医薬資源研究振興会から数えてそれぞれ10年間、6年間の長きにわたり、選考委員として研究助成金や海外留学補助金の申請書のご評価に当たっていただき、また研究報告会などを通じて若手研究者の育成にもご尽力いただきました。お陰様で、移行後の活動も大変順調で、外部からも高い評価を得ています。この場をお借りして、退任される4名の先生方に厚く御礼申し上げますとともに、重任され引き続き当財団の助成活動にご尽力をいただく評議員、理事、監事、学術委員の先生方には今まで同様のご厚情を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

**（助成金総額増）**平成24年3月末に、出捐企業であるアステラス製薬から、現行公益事業増強のための資金として4億6千万円強の寄附を頂戴いたしました。平成24年度の研究助成金公募は既に6千万円規模で実施する旨を財団や関連学会のHPなどで公表していましたので、この新たな寄附を受けて研究助成金の交付規模を6千万円から1億円程度に引き上げるのは平成25年度からとしていました。一方で、日本の生命科学発展のため、特に当財団の特徴である「若手、女性、地方研究機関所属、留学帰国直後、研究室立ち上げ間もない」研究者の支援強化のためには、平成24年度から交付総額を増やせないかとの意見も出され、種々議論した結果、理事会の承認を経て一部前倒して増額（交付者84名、交付総額8400万円）することが決定されました。本件が、平成24年度の財団活動における最大のトピックスです。

**（寄稿文）**毎号好評の受賞者・交付者からのお便りですが、本号も専門領域、所属機関等の多様性を考慮して多くの先生方にご寄稿を依頼しましたところ、そのうちのほぼ全員から素晴らしい文章と素敵なお写真を頂戴することができました。本当に有難うございました。いただいた寄稿文を読んでいますと、皆様の元気いっぱい張り切っていらっしゃる姿が目に見えるようです。毎年、多くの申請者が申請書を書く時に、財団HPや財団報に寄せられたのメッセージを読んで参考にしてくださっているそうです。こうして、先人の経験があとに続く人々につながっていると思うととても嬉しく、財団報作製の苦勞が吹き飛びます。

今号は、研究助成金交付者が多かったこともあり、前号より寄稿者を10名増やしましたので、10ページ多くなりました。

**（謝辞）**今こうして編集作業を終え読み返してみると、今年も素敵な文章やお写真をお寄せくださった多くの先生方、私なりの大雑把な編集を元に素晴らしい色とレイアウトで各ページを見栄え良くかつ読みやすくくださったベスト・プリンティング様などのご協力無くしては、このような皆様の思いがたくさん詰まった素敵な財団報には仕上がらなかったと思います。改めて、感謝申し上げます

この財団報は冊子の形だけでなく、当財団のHPに掲載する形でも公開いたしますので、ぜひとも多くの皆さんに読んでいただきたいと思っています。

なお、当財団の出捐企業であるアステラス製薬の社内報「Astellas Way第35号」にて財団活動が紹介されました。次ページにその部分を掲載いたします。そちらも、合わせてご一読ください。

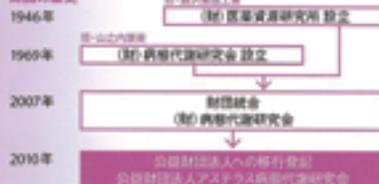
事務局参与 山下道雄

## アステラスの お仕事 探訪

# 「アステラス病態代謝研究会」 ってどんな業務？

**ア** ステラス病態代謝研究会は萌芽的・独創的な研究提案を支援する研究助成財団です。前身は医薬資源研究振興会（1973年に名称変更）(旧・藤沢薬品工業)と病態代謝研究会（旧・山之内製薬）。両財団から受け継いだ資産と、アステラス並びに個人からの寄付金をもとに、毎年研究助成金（平成25年度より総額1億円）、海外留学補助金（総額2,000万円）を受賞者に交付しています。

### 財団の歴史



## 財団の特徴と、とても大切にしていること

生命科学領域に対する研究助成・海外留学補助を行う民間の財団は多くありますが、当財団は以下の特徴があり、これらの点をとても大切に、活動を行っています。

❶ 応募に際し、推薦状提出、年齢制限を課す財団が多いのですが、当財団は推薦状不要、年齢制限なしです。研究キャリアも不問で、ただ純粋に研究アイデアでの「ガチンコ勝負」となります。

❷ 応募数が多く、評価・競争が厳しいです。このため、受賞することは「格段に優れた研究提案」を意味しますので、「受賞は極めて名誉なこと」との感想を毎年受賞者から頂戴しております。

❸ 助成金を交付することで終わりせず、継続して「研究者を育てる」ことを大切に考え、受賞1年後に研究成果を受賞者本人に発表いただいています（研究報告会）。厳しい質問・コメントが財団役員から飛び、「身の引き締まる思い」と研究報告者からお聞きしています。研究報告者の中から、優秀な発表をされた方に最優秀理事長賞（毎回2～3件、100万円／1件）、有望な若手研究者に竹中奨励賞（毎回1件、50万円／1件）を授与しています。

❹ 財団運営の要となる理事長は、アステラスから選出されるのではなく、生命科学研究に造詣が深く、公益財団活動に非常に熱心な外部の方をお願いしています。現理事長である児玉龍彦先生のもと、日本を代表する研究者の皆さまに役員となっただけ、一同に会して、毎年度の必要事項、財団活動の方向性などを極めて熱心にご議論いただいていることは、当財団の宝です。

## 活動内容（助成事業）と外部からの評価

極めて公平・公正な審査をすることで知られ、最優秀助成財団のひとつと評価されています。さらに「最優秀理事長賞」「竹中奨励賞」を受賞することは「格段に優れた研究者」であることを意味し、専攻、受賞後にキャリアアップされる研究者が多いです。

### 研究助成金

年度(平成)	18	19	20	21	22	23	24
申請者数	404	459	535	587	542	673	531
交付者数	57	73	61	65	70	67	84
採択率	14%	16%	11%	11%	13%	10%	16%

※1 平成19年度に医薬資源研究振興会と統合

### 海外留学補助金

年度(平成)	18	19	20	21	22	23	24
申請者数	106	115	102	116	104	123	140
交付者数	6	5	11	10	10	10	10
採択率	6%	4%	11%	9%	10%	8%	7%

## 理事長からのアステラス社員へのメッセージ

アステラス病態代謝研究会 理事長  
児玉 龍彦さん

東京大学アイソープ融合センター センター長  
東京大学先端科学技術研究センター 教授



ヒトゲノムの解読から、がんや生活習慣病などさまざまな難病に新しいチャレンジが始まっています。アステラス病態代謝研究会は独創的な個人の研究を応援しており、病気の治療の分子標的を見つける基礎研究、それに対する創薬の研究、生まれた治療法を検討する臨床研究の3つの領域を応援している特徴ある財団です。日本中のさまざまな地域の研究機関から、さまざまな年代の役員（男女）に参加いただき、アステラスの方にも役員として参加いただいています。助成した研究者には研究報告会での発表、活発なディスカッションを通じて、治療法発展への議論を深めることをお願いしています。機会がありましたら、ぜひ報告会にもご参加ください。

公益財団法人 アステラス病態代謝研究会の皆さん



出捐会社であるアステラス製薬の社内報で当財団の活動が紹介されました。

## 財団報 No. 6

非売品

---

発行 2013年9月15日  
編集・写真 山下 道雄  
発行者 児玉 龍彦  
発行所 公益財団法人 アステラス病態代謝研究会  
〒103-8411 東京都中央区日本橋本町2-5-1  
TEL: 03-3244-3397 FAX:03-5201-8512  
E-mail: [byoutai@jp.astellas.com](mailto:byoutai@jp.astellas.com)  
<http://www.astellas.com/jp/byoutai/index.html>  
印刷所 株式会社 ベスト・プリンティング

---

不許複製 禁無断転載